

第59回

科学技術映像祭

内閣総理大臣賞・ファウエイ賞

「奇跡の子どもたち」

寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント”



主催／(公財)日本科学技術振興財団、(公社)映像文化製作者連盟
(公財)つくば科学万博記念財団

特別協賛／華為技術日本株式会社(ファウエイ・ジャパン)

後援／文部科学省、**NHK**、(一社)日本民間放送連盟、(一社)日本新聞協会
(一財)日本視聴覚教育協会、(一財)経済広報センター
国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
(公財)民間放送教育協会

■表彰式・入選作品発表会

- 科学技術館 4/19(木)～20(金)
問合せ：03-3212-8487

■上映会の日程

上映作品、プログラム等詳細は、各問合せ先まで

- 科学技術館 青少年のための科学の祭典会場内 7/28(土)～29(日)
実験スタジアム 5月～2019年3月(予定)
問合せ：03-3212-8487
- つくばエキスポセンター 4/17(火)～22(日)
問合せ：029-858-1100
- 旭川市科学館「サイパル」 4/1(日)～2019年3/31(日)
問合せ：0166-31-3186
- 帯広市児童会館(青少年科学館) 7月末～8月上旬(予定)
問合せ：0155-24-2434
- スリーエム仙台市科学館 4/14(土)～5/6(日)(4/16、23、26は休館)
問合せ：022-276-2201
- 新潟県立自然科学館 4/28(土)～5/6(日)
問合せ：025-283-3331
- 大洗わくわく科学館 4/18(水)～22(日)
問合せ：029-267-8989
- 所沢航空発祥記念館 9/15(土)～17(月)、22(土)～24(月)
問合せ：04-2996-2225
- 名古屋市科学館 4/21(土)
問合せ：052-231-6723(主催:中部科学技術センター)
- 富山市科学博物館 7/17(水)～9/3(月)
問合せ：076-491-2125
- 大阪科学技術館 4/16(月)～22(日)
問合せ：06-6443-5318
- 5-Daysこども文化科学館(広島市こども文化科学館) 8/4(土)
問合せ：082-222-5346
- 阿南市科学センター 8/11(土)～19(日)
問合せ：0884-42-1600
- 宮崎科学技術館 6/2(日)～23(土)、7/14(土)～8/26(日)
問合せ：0985-23-2700
- 鹿児島市立科学館 10/1(月)～31(水)
問合せ：099-250-8511



第59回 科学技術映像祭

科学技術映像祭は、優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともにその普及と向上をはかり、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として昭和35年より開催しており、今回で第59回を迎えました。

今回の科学技術映像祭では、「自然・暮らし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に対し、2017年1月1日から2018年1月25日までに完成または放映された54作品(37機関)が出品され、審査試写ならびに討論の結果12本の優秀作品を選定しました。

12本の優秀作品に対して、内閣総理大臣賞(1作品)、文部科学大臣賞(3作品)、部門優秀賞(6作品)、特別奨励賞(2作品)、ファアウェイ賞(1作品)、科学技術館館長賞(1作品)が製作者ならびに企画者に贈呈されます。

第59回 科学技術映像祭入選作品

内閣総理大臣賞

- 研究・技術開発部門 **奇跡の子どもたち** 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント” ……4
企画・製作:株式会社タキオンジャパン

文部科学大臣賞

- 自然・暮らし部門 **NHKスペシャル ディープオーシャン 超深海 地球最深への挑戦** ……5
企画・製作:日本放送協会
- 研究・技術開発部門 **日本のチカラ 上げる動かす守る ～歴史を支える土木工法・曳家～** ……6
企画:公益財団法人民間放送教育協会/製作:山形放送株式会社
- 教育・教養部門 **NHKスペシャル シリーズ 人体 第1集 “腎臓”が寿命を決める** ……7
企画・製作:日本放送協会

部門優秀賞

- 自然・暮らし部門 **カムイの鳥の軌跡 ～オオジシギ2つの物語～** ……8
企画・製作:北海道テレビ放送株式会社
- 自然・暮らし部門 **NNNドキュメント17 プラス4℃の世界 温暖化の果て… 私たちの未来** ……9
企画・製作:株式会社テレビ信州
- 研究開発部門 **NHKスペシャル シリーズ古代遺跡透視 大ピラミッド 発見! 謎の巨大空間** ……10
企画・製作:日本放送協会
- 教育・教養部門 **マサックのスーパー実験室** ……11
企画:日本原燃株式会社/製作:青森朝日放送株式会社
- 教育・教養部門 **ガリレオX 読書の小宇宙 本と人とのこれからの関係** ……12
企画・製作:ワック株式会社
- 教育・教養部門 **カプトムシの一生** ……13
企画・製作:株式会社ドキュメンタリーチャンネル

特別奨励賞

- 教育・教養部門 **センターライン** ……14
企画・製作:下向拓生
- 教育・教養部門 **食品の表示と安全を学ぼう! 科学的に考える力を身につける** ……15
企画・製作:東映株式会社

ファーウェイ賞

- 研究・技術開発部門 **奇跡の子どもたち** 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント” ……4
企画・製作:株式会社タキオンジャパン

科学技術館館長賞

- 教育・教養部門 **カプトムシの一生** ……13
企画・製作:株式会社ドキュメンタリーチャンネル

59回目を迎えた科学技術映像祭には、37機関から54本という前年(25機関から43本)を大幅に上回る出品があった。積極的な出品が喜ばしいのは言うまでもないが、何よりこれまでになかったタイプの挑戦的な作品があったことが審査員としてうれしかった。

「科学技術映像祭」とは何か、言い換えると科学技術映像とは何なのかということは常に議論になるものだが、これを狭くとらえずに新しい表現に挑む制作者たちにエールを送りたい。

審査は例年のように予備審査を経て本審査という流れで進められた。予備審査を通過したのは23本、これを11人の審査員が2日間かけて見て採点し、採点結果を見ながら討論と投票を重ねて受賞作品を決めた。

内閣総理大臣賞の「奇跡の子どもたち 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント”」は、日本には患者が3人しかいないというまれな病気を持って生まれた子どもたちを、家族や医療関係者、障害児福祉にたずさわる人たちの姿とともに10年にわたって丁寧に追いつけたドキュメンタリーだ。寝たきりの兄妹を淡々と介護する母親の度量の大きさに頭の下がる思いで見入っているうち、治療法なしと言われていたのが遺伝子治療ができるとわかるという思いがけない展開になり、手術を受けて体を動かせるようになる最終盤には大きな感動を覚えた。「科学」はあまり前面に出ず、遺伝子治療の説明などに物足りなさを指摘する委員もいたが、説明過多にならない点が良いと評価する声もあり、なかならず取材クルーが丁寧に患者家族と信頼関係を築いていったことがにじみ出る映像に高い評価が集まった。

文部科学大臣賞には、NHKスペシャルが2作品入った。「ディープオーシャン 超深海 地球最深への挑戦」は、人類がこれまで見たことのない最深度の海の様子をとらえた自然科学ドキュメンタリーの王道とも言える作品。知らない世界を見るワクワク感をたっぷり味わえた。「シリーズ 人体第一集 “腎臓”が寿命を決める」は、一転して身近な話題をわかりやすく示すことに工夫を凝らした作品。最新の顕微鏡映像やCG、スタジオの床面への映像投影の活かし方などに新しい映像表現への挑戦があった。健康・医療に関する最新知識を伝えるのはテレビの重要な使命の一つだ。「正しく」と「わかりやすく」という時に対立しがちな要求を両方ともに高いレベルで達成していたのは見事だった。

もう一つの「日本のチカラ 上げる動かす守る～歴史を支える土木工法・曳家～」は山形放送の作品で、建物を持ち上げて水平移動させる伝統技術を、現場を仕切る工事

部長の人間ドラマと絡めながら描いた作品。地方局ならではの味わいがあり、時間のかかる工程がタイムラプス(コマ落とし撮影)の技法を使って効果的に映像化されていたのも良かった。

部門優秀賞の教育・教養部門は4作品。「NHKスペシャル シリーズ古代遺跡透視 大ピラミッド 発見! 謎の巨大空間」は、国際共同研究の現場における日本の二つの研究グループの競い合いを軸に描いた。持てる技術で謎を解こうとする研究者たちの挑戦がすがすがしい。謎解きの過程は上質のミステリー小説のようだった。「マサックのスーパー実験室」は、青森朝日放送が20年続けてきた科学実験バラエティーの20周年記念番組。80分を超す長尺ものだが、大笑いをしているうちに見終わった。制作者たちのアイデアと工夫、そして出演者の自然なふるまいに感心した。

「ガリレオX 読書の小宇宙 本と人とのこれからの関係」は、話がやや拡散した印象も残ったが、デジタルディスプレイでより読みやすくする研究など新しい切り口の情報が面白かった。「カブトムシの一生」は自然科学映画の定番とも言えるテーマ。美しい映像で丹念に追っており、見応えがあった。子どもたちにオススメNo.1だ。

自然・くらし部門の「カムイの鳥の軌跡～オオジシギ2つの物語～」は、日本とオーストラリアという遠く離れた地を往復するオオジシギの渡りのルートを解明する研究者たちの奮闘と、アイヌに伝わる物語・自然観を伝える美しい映像を組み合わせた味わい深い作品。「NNNドキュメント17 プラス4℃の世界 温暖化の果て…私たちの未来」は、もっぱらグローバルな視点で論じられがちな温暖化問題を、地域社会に与える影響という点に絞って掘り下げた点が評価された。

特別奨励賞の「センターライン」は、近未来SFドラマというこれまでの科学技術映像祭にはあまりなかった異色の作品。完成度は十分ではなかったものの、自動運転や人工知能、ロボットが広まった社会で人とロボットの関係はどうなるのかを考えさせるものになっていた。もう一つの「食品の表示と安全を学ぼう! 科学的に考える力を身につける」は、学校で子どもたちに見てもらうのに良い作品。説明の仕方などにもう一工夫ほしいところだが、誰もが気になる食品の問題に切り込み、誤解をただそうとする意欲を買って特別奨励賞として決まった。

奇跡の子どもたち 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間追った“感動のドキュメント”

企画・製作：株式会社タキオンジャパン

製作・脚本・演出：稲塚秀孝／撮影：篠崎順一、岡崎英治／研究者：山形崇倫、村松慎一、
加藤光広、中嶋剛、小島華林



松林佳汰さん、亜美さん、瑠美子(母)さんと自治医科大学の医師たち ビデオ80分

製作意図

日本でたった3人しかいない希少難病「AADC欠損症」の患者と家族、医師らを10年間取材した。生まれつき寝たきりで首がすわらず、発作に苦しむ子供たち。治療薬が見つからない中、両親(家族)と医師らは、子どもたちの笑顔に励まされ、看護を続ける。2015年、3人は「遺伝子治療」を受け、奇跡的な改善をすることになった。立ち上がり、歩行器を使いながら自分の足で歩き、車椅子を操作し、口から食べ物を摂取できるようになった。生きること、諦めないことの素晴らしさを感じて感動的な作品となった。

シノプシス

2004年日本で初めて「AADC欠損症」患者が見つかり、山形県の患者は兄・妹、そして東京の男子の3名だった。口から摂取していた食物は次第に呑み込めず、「胃瘻」に変わった。発作は頻繁となる中、母たちは看護と共に、「小児神経伝達物質病家族会」を立ち上げ、海外の患者との交流を始めた。一方主治医は医師仲間と共に、症例研究会を開き、患者発見に努力した。小児神経患者へ初の遺伝子治療が自治医科大学で行われ、子どもたちに奇跡の改善が生まれた。

受賞に際して

第59回科学技術映像祭において、内閣総理大臣賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。2006年に「AADC欠損症」の患者・家族を知りました。日本にたった3人しかいない希少難病の現状を映像制作者の一人として伝えたいと、取材をはじめました。寝たきりで、発作に苦しむ患者を前に、私に何ができるのかと自問自答しつつ、“親戚のおじさん”の立場で接し続けました。患者の笑顔が素敵でした。お母さんのチカラ、家族の揺るぎない支え・見守りを感じ、寄り添う医師を知りました。そして“遺伝子治療”に出会い、子どもたちが改善してゆく時間を共有させていただくことができました。

10年、カメラを通して見つけた“みじかい歴史”ですが、何にも代えがたい“患者家族と医師の絆”を垣間見ることができたことを幸せに感じています。そしてこれからが楽しみに思っています。

(撮影・監督 稲塚秀孝)

NHKスペシャル ディープオーシャン 超深海 地球最深への挑戦

企画・製作：日本放送協会

製作：岩崎弘倫、柴崎壮／脚本・演出：片山宏昭、廣瀬学／撮影：本郷大輔、小川保、富田浩司
研究者：北里洋、土田真二、小栗一将、村島崇、アラン・ジェイミソン、ジェフ・ドラーゼン、
ゲリンジャー・マッケンジー、ポール・ヤンシー



超深海で捉えたシンカイクサウオの仲間(C) JAMSTEC/NHK TV49分

製作意図

最後のフロンティア「深海」を探検し科学者とともに謎を解き明かすシリーズ。水深10000mを超える地点は世界で4箇所。いずれも海洋プレートが2億年かけて移動し、地球内部へ消えていく終焉の地であり、現在、地球史上もっとも海が深いという。そこは親指の先に1トン以上もの水圧がかかり、タンパク質の機能を止めてしまうほどだという。最近の調査で意外にも海溝の底に予想をはるかに越える多くの生命がいることがわかってきた。極限のフロンティアをどのように克服しているのか？新たな探査機を開発し生命の秘密を追う。

シノプシス

世界の深海の謎に挑むシリーズ、最終回はマリアナ海溝。水深6000mを越える「超深海」の謎に迫る。8000m付近では天女のように泳ぐ真っ白い魚マリアナスネイルフィッシュや20cm近い巨大ヨコエビなど、奇妙な生き物たちに遭遇。さらに新型探査機を開発し地球最深部10920mを目指す。指先に1トンの水圧がかかる世界に、どんな生命がいるのか？生存の限界を広げてきた、深海のパイオニア達を追う。

受賞に際して

地球で最も深い海「マリアナ海溝」は、一体どんな所なのか。そこにはどんな生き物が暮らしているのか？そんな素朴な疑問を映像化しようと動き出した私たちのプロジェクト。それは、恐るべき水圧という壁がたちはだかる、極限の世界へのチャレンジでした。水深6000mを超える「超深海」は、現代の科学技術をもってしても一筋縄ではたどり着けない場所です。多くの研究者、エンジニア、そして船の乗組員の方々の協力の元、2年の準備期間をかけ、新たに開発された探査機に最新の4Kカメラを搭載、謎に包まれた「超深海」へと挑みました。生きた魚が撮影されたことのない水深8178mの映像を研究者と確認した時は、ハラハラドキドキの瞬間でした。殺伐とした海底に現れた白い魚の姿を見た時、「生命ってスゴイ」と改めて思いました。世界最深記録を更新した映像は、世界的ニュースにもなりました。未知の世界への挑戦、これからも挑み続けたいと思います。

(廣瀬 学)

日本のチカラ 上げる動かす守る ～歴史を支える土木工法・曳家～

企画：公益財団法人民間放送教育協会／製作：山形放送株式会社

製作：山内正俊・雪竹弘一／演出・撮影：沼沢諭(プライド・トゥ)



曳家現場 TV26分

製作意図

「曳家(ひきや)」と呼ばれる土木工法は“建物を解体せず”に移動する”職人技で、500年以上の歴史を持つ。区画整理や道路拡張で建物の移動が余儀なくされた時や、文化財の保存技術としても注目を集めている技術だ。2015年、青森県にある国の重要文化財・弘前城で行われた曳家工事では、約400トンもの天守が動いた。この現場を任されたのが、山形県米沢市の小さな曳家業者だった。「建物に染み付いた人々の記憶や歴史も一緒に運びたい…」知られざる“曳家”という技術と、建物を守る職人の思いに迫る。

シノプシス

山形県米沢市にある曳家専門の土木業者「我妻組」。工事部長の石川憲太郎さんはこの道24年の曳家職人だ。曳家は建物と基礎のつなぎ目を切断、油圧ジャッキを使って建物を持ち上げ、ころの原理で水平移動させる。3年前、石川さんは弘前城の改修工事を担当、約400トンある天守閣を80メートル移動させた。この夏、石川さんは地元の古い小学校の曳家を担当することに。昭和初期の全長93メートルもある木造校舎を持ち上げなければならない。数々の困難

が立ちはだかるなか、校舎を動かすことはできるのか？

受賞に際して

初めて曳家を目の当たりにしたのは、宮城県の一般住宅でした。震災の影響で住宅が傾き、部屋ではボールがコロコロと転がっていました。着工から3日後、そのボールは床の上でピタッと止まり、微動だにしません。当時カメラを回していた私は、開いた口が塞がりませんでした。そんな一見魔法のような曳家の技も、建物を動かすまでは過酷。薄暗く砂埃が舞う住宅の基礎の下で、鋼材を入れたり、水平を合わせたりと…、力仕事と緻密な作業が連日続きます。曳家職人・石川さんが少し照れ臭そうに言いました。「うちらは`縁の下の力持ち、です」と。

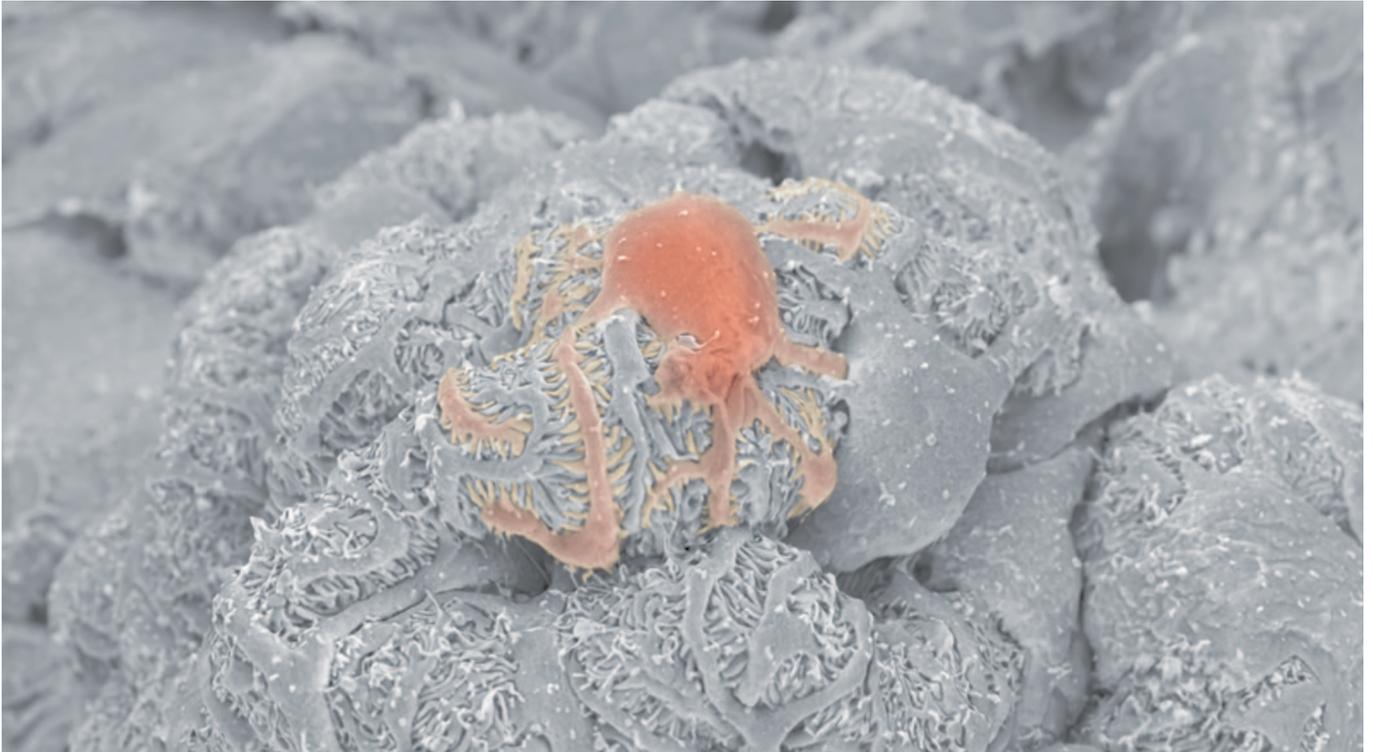
男気あふれる現場に飛び込み24年。一般住宅や神社仏閣だけでなく、弘前城まで動かした石川さんに尋ねました。「石川さんが今後曳いてみたい建物ってあるんですか？」「機会があれば東京スカイツリーを曳いてみたいですね(笑)」石川さんは本気です。今後も日本の伝統技術“曳家”から目が離せません。

(沼沢 諭)

NHKスペシャル
シリーズ 人体 第1集 “腎臓”が寿命を決める

企画・製作：日本放送協会

製作：浅井健博／演出：丸山優二／撮影：今井輝



尿をこし出す「糸球体」を拡大した電子顕微鏡写真(甲賀大輔・旭川医科大学/日立ハイテクノロジーズ/NHK) TV49分

製作意図

今、医学の世界で、これまでの「人体観」を覆す、巨大なパラダイムシフトが起こりつつある。人体のイメージと言えば、「脳が全身を支配し、他の臓器はそれに従う」というものだった。ところが最新科学でわかってきたのは、「体中の臓器が互いに直接情報をやりとりすることで、私たちの体は成り立っている」という驚きの事実だった。シリーズ第1集の主演は、「腎臓」。尿を作ることで知られる腎臓だが、じつは体内のネットワークの要となる存在だった。世界中の研究者たちがそのパワーの解明に乗り出し始めている。

シノプシス

腎臓のパワーを操れば、脳卒中や心筋梗塞の原因となる重症の高血圧を一挙に改善。多臓器不全で死の危険にさらされていた患者も救えるなど驚きの成果が報告され始めている。さらに、「健康長寿のカギ」となる「ある物質」を、腎臓が調整していることも明らかに。世界初となる8K顕微鏡生体イメージングや3D電子顕微鏡によって撮影されたミクロの映像、そして、フル4KのCG。最先端の映像技術を駆使しながら腎臓の驚異的な仕組みに迫り、身近な「体」の

知られざる真実を圧倒的なスケールで描いていく。

受賞に際して

私たちの体の中には、インターネットに匹敵する巨大ネットワークが存在し、臓器や細胞たちはまるでSNSで会話するかのように情報をやりとりしている…最新科学で解き明かされた新たな人体観をお伝えするため、今回のシリーズが始まりました。第一集の主演「腎臓」は、これまで“ちょっと地味”なイメージでしたが、人体を“ネットワーク”という新たな視点で見ると、腎臓こそがスーパースターだったのです。脳や心臓ではなく、地味な腎臓を第一集に選んだことは大きな賭けでしたが、このシリーズを象徴していると感じています。放送後、「腎臓の大切さがはじめてわかった！」など、大きな反響をいただき、嬉しく思います。専門用語が多く、難しくなりがちな科学番組を楽しくわかりやすくまとめたいただいた司会のタモリさんと山中伸弥さん、取材に協力していただいた研究者の皆様、この番組に関わった全ての人に心から感謝申し上げます。

(丸山優二)

カムイの鳥の軌跡 ～オオジシギ2つの物語～

企画・製作：北海道テレビ放送株式会社

製作：北海道テレビ放送株式会社



発信機を取り付けたオオジシギ。わずか5gの衛星発信器を取り付け旅路を明かす世界初の調査 TV45分

製作意図

この番組は科学の発達により未知の世界が解明される“ネイチャーサイエンスドキュメンタリー”です。オオジシギは豊かな湿地に生息する動物です。地球規模で移動する鳥の渡りを理解することで、たった1羽を守るためにどれだけの広い環境を保全し、多くの国の人々が手を携えなければならぬかということが見えてきます。ドローンで撮影した道内の素晴らしい景色を番組の随所に盛り込みながら、特に未来ある子供たちにメッセージが伝わるよう“見て楽しい”要素も盛り込んだ番組を目指しました。

シノプシス

北海道とオーストラリアを渡る小さな渡り鳥 オオジシギ。日本から1万キロ離れたオーストラリアに向かってオオジシギはどんな旅をしているのか？番組は、調査で見えてきた驚きの生態を明らかにしながら、国境を越えた地球規模での生態系保全と国際協力の重要性を伝えます。オオジシギにまつわるアイヌの伝説を現代科学で検証して見えてきたのは、命の大切さ、健全な水辺の重要性、そして普段、見過ごしている、私たちのすぐそばにある自然の驚異でした。

受賞に際して

超小型発信機が明らかにした渡りの座標。

スーパーコンピューターがはじき出した地球規模の風の流れ。

2つのデータを重ねたとき、私たちのすぐそばで暮らす、気にも留めなかった小さな鳥が、壮大なスケールで冒険の旅を繰り広げていることを知りました。驚きと畏怖の念を感じさせる新発見でしたが、同時に私たちがその隣人に与えてきた軋轢をも知ることになりました。私たちの周りにどんな隣人がいて、仲良く近所づきあいするにはどうしたらよいのか。そんなことを考えるきっかけに番組がなれたら良いと思います。

（沼田博光）

NNNドキュメント17
プラス4℃の世界 温暖化の果て…私たちの未来

企画・製作：株式会社テレビ信州

製作：伊東秀一／脚本：永江敦志／

撮影：山岸裕也、駒村友哉／研究者：高木直樹(信州大学)／玉井浩(長野県果樹試験場)



高温の実験ハウスで栽培したリンゴは色が薄く一回り大きい TV24分

製作意図

地球温暖化は、もはや避けられないといわれ今世紀末の日本の平均気温は約4℃上昇すると予測されている。地球全体の自然や環境への影響は多くの番組で伝えているが、身近な影響はあまり知られていない。標高が高い長野県は国内で最も温暖化の影響を受けやすいと言われている地域のひとつ。この長野県で起こる温暖化の影響を取材し、その前例から将来、全国的な課題となりうる温暖化対策への問題提起となる番組を目指した。

シノプシス

長野県で起こる温暖化の数々の「異変」を描くオムニバス構成。農業が盛んな長野県は冷涼な気候ならではの特産品が多く、既に温暖化の影響を受け始めている。リンゴ、ワイン用ブドウは夜の気温が下がらず味のバランスが崩れだした。高原レタスは玉にならない不結球が出始め出荷できない。天然寒天は冬の寒さが足りず生産量は減少。都市部の問題ではヒートアイランド現象による熱中症患者の増加が予想され、その対策が急がれる。今日の課題を独自の視点で、ナレーターの浜辺美波が一人称で伝えていく。

受賞に際して

ともすれば私たちが見落としてしまうような小さな“異変”にまず気付くのは生産者たちである。その小さな異変をつぶさに集めることで“大きな何か”が見えてくるのではないか。そんなところから番組の取材は始まった。そして集められた個々の異変を見れば、私たちが暮らす長野県の気候環境と食環境、生態系を根っこから揺るがしかねない事態が静かに進んでいることに思い至る。その変化に気が付き、記録し、それを私たちの取材に明晰に答えて下さった生産者、研究者の一人一人に感謝と敬意をお伝えしなければと思う。温暖化—。とかく総論で語られがちな問題を、今回はある種“各論”を寄せ集めることで、手触り感のある、より身近な問題として捉えることが出来た。加えて、浜辺美波という17歳のナレーターが等身大の目線で語ってくれた未来への不安が、通奏低音のように番組を引き締めてくれた。重ねて感謝をお伝えしたい。

(伊東秀一)

NHKスペシャル シリーズ古代遺跡 大ピラミッド 発見！謎の巨大空間

企画・製作：日本放送協会

製作：矢吹寿秀、柴崎壮、堤田健一郎、高間大介／演出：三上紘司、久泉巧
撮影：中尾潤一／CG：伊達吉克



クフ王の大ピラミッドに設置した高エネルギー加速器研究機構のミュオン観測装置 TV49分

製作意図

NHKは2014年春から、福島原発事故の廃炉作業のためにミュオン透視技術を開発していた2つの研究機関（名古屋大学・高エネルギー加速器研究機構）と共同研究体制を作り、古代遺跡調査の現場で使える技術開発を進めてきた。そしてこれをエジプトの大ピラミッドに持ち込み2年がかりの透視調査を行った結果、大ピラミッド内部に、これまで全く知られていなかった巨大空間があることが明らかになった。成果は英国の科学雑誌「ネイチャー」電子版に掲載され、その2日後にNHKで当番組を放送した。

シノプシス

エジプト大ピラミッドの「永遠の謎」は解けるのか？日本発の透視技術が大発見を成し遂げた！4500年前に誕生したエジプトの大ピラミッド。「ミイラはどこにあるのか」など今なお謎に包まれている。その謎に挑もうと一昨年から続けられてきたエジプト・クフ王の大ピラミッドでのミュオンによる透視調査が、ついに驚きの大発見を成し遂げた。ピラミッド内部に、これまで全く知られていなかった

巨大空間があることが明らかになったのだ。ここには何が入っているのか。最新の考古学の成果から推測も行った。

受賞に際して

「マルチダウンした福島第一原発の原子炉内部を探るために、『ミュオン透視技術』の実用化を目指した研究が、日本国内で密かに進められている」。そんな情報を入手したのは今から5年前の2013年、まだ東日本大震災の余韻が濃厚に残っていた頃のことでした。

当時エジプト考古学の番組を企画していた私たちは、この技術で謎多きクフ王の大ピラミッドを透視できたら、あっと驚く大発見ができるはずだと考え、実現にむけて各所への働きかけを始めました。その日から「大ピラミッドに未知の巨大空間発見！」とのニュースが世界を駆け巡るまでの4年あまりの間、筆舌に尽くせぬほど多くの苦難、そしてかつて経験のない興奮を味わうこととなりました。日本人が震災後の苦闘の中で実用化した新技術を、世界にポジティブな驚きを生み出すために使えたことを嬉しく思います。熱い想いで果敢に大ピラミッドに挑んで下さった科学者の皆様に心からの尊敬と感謝を表します。（矢吹寿秀）

マサックのスーパー実験室

企画：日本原燃株式会社／製作：青森朝日放送株式会社

製作：帷子聖修／脚本：小寺等之／演出：小寺等之／撮影：櫻田太志／研究者：工藤貴正



超怪力！29トンの飛行機を引っ張る男!! TV87分

製作意図

次世代を担う小・中学生を対象に、理科・科学に関する興味・関心を抱かせ、将来に向け「科学する心」を養う一助として、1998年からこの番組を制作している。各回の内容は、主に日常生活の物理現象から選び、科学の原理・法則や科学技術を分かってもらえるような科学実験・マジックなどを設定している。番組の過去最高視聴率は11.5%で、地方局としては絶大な人気を誇っている。さらに、当社が選定する青少年に見てもらいたい番組の一つにもなっている。

シノプシス

Mr.マサックこと工藤貴正氏が繰り広げる科学実験バラエティー。エジソンが発明したメガホンの検証実験、一般の方々やタレントに体験・挑戦してもらう街角科学実験、助手たちと行うドキドキ実験、生物(今回はカニ)の不思議を探るマサック探検隊、巨大飛行機(ANA)を引く日本の達人、さらに今回は番組放送20周年を記念し、工藤氏へのインタビューと合わせ、過去の実験映像を随所に入れた。

受賞に際して

今回の受賞とても嬉しく思います。現役高校教諭の工藤貴正氏と二人三脚で、制作をしてきた20年目の作品です。制作当初から、助手たちには大まかな進行以外は知らせておらず、台本も渡していません。これは、共演者のリアルな反応を大切にしたいからです。単に現象面での面白さだけを追求するのではなく、エンターテインメント性やストーリー性のある展開に努力しています。一般の方々との街角科学実験では、実験に参加し、やってみた人でなければわからない、科学や科学技術の楽しさや素晴らしさを体感・共有してもらいたいと考えています。また、学校現場では、なかなかできない大掛かりな実験、歴史的な検証実験、そしてロケの映像などは、子どもたちやその家族が科学する心や豊かな人間性を育む一助となることを願っています。最後に、制作にあたって長時間の撮影に協力していただいた番組スタッフに深く感謝いたします。

(小寺等之)

ガリレオX 読書の小宇宙 本と人とのこれからの関係

企画・製作：ワック株式会社

製作：太田洋昭／脚本・演出：泉大知／助手：森田昌也／撮影：本間秀幸、松本直幸、成毛紳／研究者：酒井邦嘉、尾鍋史彦、竺覚暁、藤原正彦、阿部卓也／取材先：中川清貴、伊藤正樹、小林潤平、黒田茂、篠田晃典



読書の小宇宙 TV26分

製作意図

「書籍をめぐる紙と電子の戦い」という不毛な覇権論ではなく、M.マクルーハンの「メディア形式がコンテンツを規定する」が体現された現状を俯瞰してみたいという意図がありました。次世代電子書籍リーダーの微振動したり斜めになったりという表象は、従来からの紙の本好きからしたら「何してくれてるの!」というフェティシズム喪失の大事件ですが、ケータイ・WEB小説で育ったデジタルネイティブからしたら珍しくも何ともないマクルーハンの事象のひとつにしか過ぎないのでは?そんな想像をしながらの構成です。

シノプシス

文字の発明から6千年、活版印刷の発明を経て、書物は文明の近代化を推し進める原動力となってきた。「世界を変えてきたのは読書だった」とも言えよう。ガリレオの「星界の報告」も、ニュートンの「プリンキピア」も、もし人々に広く読まれなかったとしたら、世界の姿は現在と全く異なったものになっていたに違いない。いま書物は多様な電子メディア端末と融合し、人類総体としての読書量は増大している。未来の読書を予見するよう新たな電子リーダーも

現れてきた。デジタル時代の読書が問う、新たな知の体系に迫る。

受賞に際して

小学生の頃、「むささびのおやこ」という本で読書感想文コンクールに入選し嬉しかったことが自分の読書体験の原風景です。夏休み、原稿用紙、ちびた鉛筆と消しゴム、夕飯のにおい、母親の呼ぶ声。時は移り、今回の番組作りの参考に電子書籍リーダーを初めて購入。通勤電車、つり革と揺れ、喫茶店の珈琲のにおい、店員の呼ぶ声。持ち歩いては起動し、液晶を撫でて感じたのは、優劣の話ではなくこれは紙の本とはまったく異なるメディアだということ。そこで想像するのが、紙と並行に電子端末で本を読む環境が最初からあるデジタルネイティブ世代の未来には、より新しい読書の風景とにいが現れているに違いないと。それはきっと、番組でとりあげた電子書籍に適した読みやすいフォント開発や、文節がなんと微振動し階段状に改行してゆく読書アシスト技術の先にあるのかもしれないと。この度は栄えある賞を頂きありがとうございました。

(ディレクター 泉 大知)

カブトムシの一生

企画・製作：株式会社ドキュメンタリーチャンネル

演出：藤原英史／撮影：藤原英史／研究者：山中明、小島渉、垣内康孝



サナギになるカブトムシ ビデオ16分

製作意図

日本の子どもにとって、カブトムシほど、身近で、人気の高い昆虫は、他にいないでしょう。しかし、小学校の理科の教科書には、ほとんど登場せず、その命の営みが科学的な視点で語られることは、意外と少ないのが現状です。本作品では、科学的な視点に立ち、階調豊かな映像を撮影できる最新の4Kカメラを活用し、カブトムシの一生を撮影しました。家庭や学校では、なかなか観察することが難しい、密やかな生命の営みを、美しい映像で視聴することで、自然により親しみをもち接することができるように製作しました。

シノプシス

多くの子どもたちが、夢中になるカブトムシ。近所の雑木林で探したり、家庭や学校などで飼育した経験のある人も多い、身近な生きものです。自然の中で生きるカブトムシは、どんな生活をしているのでしょうか？このビデオでは、カブトムシの生態、オス同士のケンカ、オスとメスの交尾、また、卵から幼虫、サナギ、成虫へと変身していく様子を克明に紹介します。飼育していても観察することが難しい決定的な変化の

瞬間を映像で視聴することで、カブトムシをより深く知り、さらなる好奇心を高めることができます。

受賞に際して

カブトムシというありふれた題材を丁寧に撮影し、シンプルにまとめた作品に対し、高い評価を頂けたことに驚き、感謝しております。私は、様々な分類群の生物、普通は見向きもされないような生命の営みを映像記録として残すことをライフワークの一つとしています。その中でカブトムシは「普通すぎる」生物だったのですが、カメラを通して対峙した世界には、知っているようで知らなかった驚きの世界が広がっていました。今回の作品は、自分の子供時代、カブトムシに夢中になっていた頃、自分にはどんな世界が見えていたか？どんな世界しか見えていなかったか？ということ思い出しつつ、今、自分が持っている知識や物の見方を子供に伝えるには、何をどう見せるべきなのか？ということ意識しながら制作しました。制作にあたり、研究・教育関係の方から、様々な助言をいただき、制作チームからも多くの励ましをいただきました。厚く御礼申し上げます。
(藤原英史)

センターライン

企画・製作：下向拓生

製作・脚本・演出：下向拓生／撮影：JUNPEI SUZUKI



被告人は人工知能 映画67分

製作意図

人工知能の社会実装における課題は、人工知能の判断に論理的な説明がつかないことと、人工知能による事故の法的責任についてであると私は考えています。特に法的見地からは、メーカー側に責任を負わせれば技術発展は停滞し、反対にユーザー側に責任を負わせれば普及の阻害となると考えられます。私は、将来に起こり得る事象をシミュレーションし、その結果と娯楽性を融合させた映画作品として本作を仕上げました。今後普及していくであろう人工知能の社会課題について議論できるような作品になれば幸いです。

シノプシス

自動運転が発達した近未来で、運転を制御する人工知能が死亡事故を起こした。検察官である主人公は、その人工知能を被告人として過失運転致死の裁判を起こすが、“彼”は故意に事故を起こしたと供述する。主人公は、人工知能の殺意(感情)を立証するため、証拠調べに奔走する。

受賞に際して

このようなエンターテインメント作品が受賞したということで、驚きとともに大変光栄に思います。誠にありがとうございます。映像には力がある、と私は思っています。人の心を動かす力、人との繋がりを強める力、立ち向かう勇気を与える力、世界を変える力。その力を信じ、キャスト・スタッフ一丸となって本作を制作してまいりました。本作が、エンターテインメントとして「面白かった」という感想を頂ける作品になると同時に、科学・技術・未来について考えるきっかけとなる作品になればと思います。本作はドキュメンタリーではなく、未来を舞台にしたフィクションであるため、作中での法律実務は実際と異なる場合があります。しかし、近い将来、作中の出来事が現実になる日が来ると、私は確信しています。最後に、本作に関わってくださった出演者、スタッフ、専門家、ロケーション協力の方々に深く感謝申し上げます。

(下向拓生)

食品の表示と安全を学ぼう！ 科学的に考える力を身につける

企画：製作：東映株式会社

製作：光田雅樹／脚本・演出：堀田尚志／撮影：縄田浩太郎／研究者：三輪操



生鮮食品、加工食品を前にしたエミとフトシ ビデオ25分

製作意図

私たちが適切に食品を選択するためには、食品の表示を正しく読み取り、食品の安全について正しく理解することが大切です。そのために、本作品ではまず身近な食品の表示の例を示して、食品表示の基本ルールを説明します。食品の安全については、食品添加物の役割やその安全基準のメカニズムを、専門家の解説と図や表を交え、分かりやすく描いていきます。食品の安全について、誤った情報に惑わされず自分の頭で考え、科学的根拠に基づき判断できる力を養うことをねらいとしています。

シノプシス

中学生のフトシとエミと一緒に、「食の安全」についての科学的な考え方を学んでいきます。まずは、生鮮食品と加工食品の特徴を解説し、食品表示の読み方を学んでいきます。次に食の安全について学ぶため、フトシとエミは三輪操先生の研究室を訪ねます。三輪先生に食品添加物の役割、その安全基準のメカニズムなどについて語っていただきます。そして安全な食べ物とは何かを考え、バランスのいい食生活の大切さを訴えていきます。

受賞に際して

このたびは特別奨励賞を受賞し、誠に光栄に存じます。「食の安全」についての映像教材を作るにあたり、当初は「食品添加物＝悪、無添加＝良」の図式の作品も考えました。その方が売れるのでは？という意見もありました。しかし数多くの文献にあたり勉強するにつれて、本作品で訴えるべきことが明確に見えてきたのです。食品添加物は私達の食生活に役立つものであり、安全基準も科学的に決められているということ。誤った情報に惑わされず、科学的に判断することが大切だということです。その点を誠実に分かりやすく描いたことがご評価いただけたとすれば、非常に嬉しく思い、これからの励みにもなります。最後にこの場をお借りして、監修・出演していただいた三輪操先生、監督の堀田尚志さん、制作の木下勢治さんにお礼を述べたいと思います。皆様ありがとうございました。

（光田雅樹）

第59回 科学技術映像祭参加作品

No.	部門	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
研究・技術開発部門(12本)				182		
1	研究・技術開発	映画ビデオ	金属加工シリーズ フライス加工の基礎	41	日刊工業新聞社	
2	研究・技術開発	映画ビデオ	腸内フローラ 不思議な生命体	5	ライフムービー(株)	アサヒグループホールディングス(株)
3	研究・技術開発	映画・ビデオ (youtube動画)	ERATO season4.0 アルゴリズムが世界を変える 複雑ネットワークを科学する	7	(有)デンバクファノデザイン	国立情報学研究所 ビッグデータ数理国際研究センター ERATO 河原林巨大グラフプロジェクト
4	研究・技術開発	映画ビデオ	ImPACTプログラム タフ・ロボティクス・チャレンジ 防災をタフに支援できるロボット技術	15	(株)イメージサイエンス	国立研究開発法人 科学技術振興機構
5	研究・技術開発	映画ビデオ	革新的研究開発推進プログラムImPACT 無充電で長期間使用できる 究極のエコIT機器の実現	8	(株)モンタージュ	国立研究開発法人 科学技術振興機構
6	研究・技術開発	映画ビデオ	新的研究開発推進プログラムImPACT 社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォームBDD2 琵琶湖実験 紹介映像	7	(株)モンタージュ	国立研究開発法人 科学技術振興機構
7	研究・技術開発	映画ビデオ	竜脚類 巨大化の秘密	16	(株)FBCアドサービス	福井県立恐竜博物館
8	研究・技術開発	映画ビデオ	宇宙エレベーター	24	(株)NHKエデュケーショナル	サイエンスヒルズこまつ ひととものづくり 科学館
9	研究・技術開発	映画ビデオ	奇跡の子どもたち 寝たきりの希少難病の患者と家族を10年間 追った“感動のドキュメント”	80	(株)タキオンジャパン	
10	研究・技術開発	TV	日本のチカラ 上げる動かす守る ～歴史を支える土木工法・曳家～	26	山形放送(株)	(公財)民間放送教育協会
11	研究・技術開発	TV	BS1 地球リアル 8K 顕微鏡ドキュメント 細胞が動きだす～iPS細胞研究の最前線～	10	(株)NHKエデュケーショナル	日本放送協会 編成局 コンテンツ開発センター
12	研究・技術開発	TV	ガリレオX ヒトとイヌの不思議 科学が解き明かすその絆	26	ワック(株)	

No.	部門	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画機関
自然・暮らし部門(15本)				461		
13	自然・暮らし	映画ビデオ	ストップ! 異物混入	23	(株)東殖	一般財団法人 東京都食品衛生協会
14	自然・暮らし	映画ビデオ	2秒間の物語 たまゆらの生命	15	難波写真事務所	(有)サンデーラボ
15	自然・暮らし	映画ビデオ	アゲハの一生	32	(株)ドキュメンタリーチャンネル	
16	自然・暮らし	映画ビデオ	福島 生きものの記録 福島 生きものの記録 シリーズ 5 追跡	95	(株)群像舎	
17	自然・暮らし	映画ビデオ	相次いで大きなゆれが! 熊本地しんの特ちょうを知っておこう	19	(株)映学社	
18	自然・暮らし	映画ビデオ	熊本地震・連続震度7 内陸の浅い地震の怖さ	23	(株)映学社	

No.	部門	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
自然・暮らし部門				461		
19	自然・暮らし	映画 ビデオ	認知症対策シリーズ 何をしたか、思い出せない ～認知症をよく知り、早めの備えを～	20	(株)映学社	
20	自然・暮らし	映画 ビデオ	認知症対策シリーズ 無事に帰れる街づくり ～認知症の道迷い(徘徊)には理由がある～	19	(株)映学社	
21	自然・暮らし	映画 ビデオ	認知症対策シリーズ いつでも連絡してね ～地域で認知症の家族を支える～	21	(株)映学社	
22	自然・暮らし	映画 ビデオ	氷の大陸から 南極で見た地球の未来	47	RKB毎日放送	
23	自然・暮らし	TV	カムイの鳥の軌跡 ～オオジシギ2つの物語～	45	北海道テレビ放送(株)	
24	自然・暮らし	TV	日本のチカラ 人工乳房で微笑みを ～常滑焼「型」職人の挑戦～	26	名古屋テレビ放送(株)	(公財)民間放送教育協会
25	自然・暮らし	TV	ガリレオX イモリはなぜ再生できるの？ 目指せ！夢の医療	26	ワック(株)	
26	自然・暮らし	TV	NHKスペシャル ディープオーシャン 超深海 地球最深への挑戦	49	日本放送協会 科学環境番組部	
27	自然・暮らし	TV	NNNドキュメント17 プラス4℃の世界 温暖化の果て… 私たちの未来	24	(株)テレビ信州	

No.	部門	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画機関
教育・教養部門(27本)				841		
28	教育・教養	映画 ビデオ	センターライン	67	下向 拓生	
29	教育・教養	映画 ビデオ	食品の表示と安全を学ぼう！ 科学的に考える力を身につける	25	東映(株)	
30	教育・教養	映画 ビデオ	体験！アクティブ・ラーニング ～キャタリストフォーラム～	10	椋山女学園大学 栃窪研究室	(公財)中部科学技術センター
31	教育・教養	映画 ビデオ	ひなちゃんのお勉強	29	能勢 広.	
32	教育・教養	映画 ビデオ	みる、わかる、やってみたくなる、化学実験！ 第1巻 理論編 実験操作、薬品の取り扱い	22	(株)新宿スタジオ	
33	教育・教養	映画 ビデオ	みる、わかる、やってみたくなる、化学実験！ 第3巻 理論編 酸化還元反応	17	(株)新宿スタジオ	
34	教育・教養	映画 ビデオ	みる、わかる、やってみたくなる、化学実験！ 第7巻 各論編 無機化合物 2	24	(株)新宿スタジオ	
35	教育・教養	映画 ビデオ	みる、わかる、やってみたくなる、化学実験！ 第8巻 各論編 有機化合物 1	32	(株)新宿スタジオ	
36	教育・教養	映画 ビデオ	みる、わかる、やってみたくなる、化学実験！ 第10巻 各論編 高分子化合物	31	(株)新宿スタジオ	

No.	部門	種別	作品名	分数	製作機関(企画製作機関)	企画・委託機関
教育・教養部門				841		
37	教育・教養	映画 ビデオ	弥生・土製鋳型を造る 須玖タカウタ遺跡 土製鋳型再現実験	40	(株)RKB映画社	春日市教育委員会文化財課
38	教育・教養	映画 ビデオ	エクリプス 一日食とは	6	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台	
39	教育・教養	映画 ビデオ	ステラ 星の軌跡	10	富山第一高等学校	
40	教育・教養	映画 ビデオ	シラビソとコメツガの森 亜高山帯針葉樹林	35	(有)EUGLENA	
41	教育・教養	映画 ビデオ	Olfaction of the Papilio butterflies on their Antenna	43	Ace Enterprise	
42	教育・教養	映画 ビデオ	カブトムシの一生	16	(株)ドキュメンタリーチャンネル	
43	教育・教養	TV	ピカイア!! 第5回「追跡、メガネウラ!!」 第6回「チャンスは一度、ピカイアを救え!!」	30	(株)NHKエデュケーショナル	(C)NHK・NED・IG・OLM
44	教育・教養	TV	マサックのスーパー実験室	87	青森朝日放送(株)	日本原燃(株)
45	教育・教養	TV	バックン&河北麻友子のあつまれ! VRフレンズ 夏休みスペシャルinアメリカ	53	(株)日テレ アックスオン	(株)フォーラムエイト
46	教育・教養	TV	ウルトラ重機 3 究極ワールドの重機たち	89	日本放送協会	
47	教育・教養	TV	日本のチカラ 共にあゆむ～介護靴メーカーの挑戦～	26	西日本放送(株)	(公財)民間放送教育協会
48	教育・教養	TV	日本のチカラ いつも心に「ハレ」の日を ～彩り結ぶ加賀百万石の水引～	26	北陸放送(株)	(公財)民間放送教育協会
49	教育・教養	TV	日本のチカラ 1500年をつなぐ紙 ～女神が漉く伝統～	26	福井放送(株)	(公財)民間放送教育協会
50	教育・教養	TV	ガリレオX 銅鐸に新発見 謎の青銅器は何を語るのか?	26	ワック(株)	
51	教育・教養	TV	ガリレオX 読書の小宇宙 本と人とのこれからの関係	26	ワック(株)	
52	教育・教養	TV	NHKスペシャル 黒潮 世界最大 渦巻く不思議の海	49	(有)プロダクション・エイシア	日本放送協会
53	教育・教養	TV	NHKスペシャル シリーズ古代遺跡透視 大ピラミッド 発見!謎の巨大空間	49	日本放送協会	
54	教育・教養	TV	NHKスペシャル 人体 第1集 “腎臓”が寿命を決める	49	日本放送協会	

第59回 科学技術映像祭 開催要綱

目 的

科学技術を正確にわかりやすく伝える優れた映像を選奨し、科学技術への関心を喚起し、その普及と向上をはかるとともに、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的とする。

行 事

- (1)優秀作品の選定
- (2)入選作品の表彰(科学技術週間行事)
- (3)入選作品の発表

主 催

- (公財)日本科学技術振興財団
- (公社)映像文化製作者連盟
- (公財)つくば科学万博記念財団

運 営

- 第59回科学技術映像祭運営委員会
- (1)運営委員会は本行事に関するすべてのことを決定する。
- (2)運営委員会は委員6名をもって構成する。

後 援

- 文部科学省、日本放送協会、(一社)日本民間放送連盟
- (一社)日本新聞協会、(一財)日本視聴覚教育協会
- (一財)経済広報センター
- 国立研究開発法人科学技術振興機構、全国科学館連携協議会
- (公財)民間放送教育協会

募集期間

2016年11月30日～2017年1月25日(必着)

応募資格

日本所在の製作者、企画者(スポンサー)、テレビ局、学術研究機関・教育機関および個人が制作した作品。日本に所在を持たない場合でも、作品が日本国内で公開(放送、上映または販売)された作品は参加できる。

募集要件

- (1)2017年1月1日から2018年1月25日までに完成した作品。初出品であること。
- (2)参加作品の上映時間は原則として90分以内
また、短編の作品も参加を歓迎する。
- (3)一応募者からの総参加作品数は5本までとし、総上映時間は180分を限度とする。
- (4)メディア・手法
a 映画・ビデオ b TV番組 c アニメーション d CG
e インタラクティブWeb動画 f モバイル

募集部門

参加作品は科学技術に関する映像で、次の部門のいずれかに参加できる。

- (1)自然・暮らし部門
 - a. 自然、環境、生物生態記録
 - b. 暮らしの脅威(たとえば、防災、安全などに関するもの)や疾病の治療や予防に関する作品で、研究開発部門に該当しないもの
- (2)研究・技術開発部門
 - a. 最新の科学技術・産業技術および研究開発などを中心に、その現状と将来などの応用面を紹介した作品(たとえば、エレクトロニクス、エネルギー、材料、機械、バイオテクノロジー、農林水産分野などに関するもの)
 - b. 基礎医学、臨床医学、歯学、薬学、保健の研究を紹介した作品
 - c. 基礎研究および学術研究を紹介した作品で、科学者・技術者が研究を進める手段として制作した映像、または、研究業績発表のために用いた映像を含める。
- (3)教育・教養部門
 - a. 主に小学生、中学生、高校生および社会一般を対象として制作された作品で、物理、化学、地学、生物、技術・家庭(ものづくり教育を含む)など科学教育に関する作品
 - b. 科学技術の教養に関する作品。たとえば、技術史、考古学、

人類学、評伝などに関するものを含む。(上記の各部門に該当しない作品)

賞

- 内閣総理大臣賞 1作品(最優秀作品)
賞状および副賞(カップ)
- 文部科学大臣賞 3作品(部門各1作品)
賞状および副賞(楯)
- 部門優秀賞 6作品 賞状
- 特別奨励賞(上記優秀作品10作品以外) 賞状
科学技術映像に関する新たな取り組みや、科学技術映像の活用による理解増進への貢献が顕著な作品に対し、特別奨励賞を贈ることができる。
- 賞は企画者(含むスポンサー)および製作者それぞれに贈る。

審 査

- (1)二段階審査(一次審査および本審査)
 - (2)審査委員
運営委員会から委嘱された審査委員10名程度をもって審査委員会を構成する。
審査委員会には運営委員会より委嘱された委員長1名、副委員長2名以内を置く。
 - (3)審査方法 審査委員会で決定する。
- 審査期間 2018年2月
発 表 2018年3月(予定)
(プレスリリースおよび科学技術映像祭HP上で発表)
- 表 彰 式 2018年4月20日(金) 科学技術館サイエンスホール
上 映 会 2018年4月～2019年3月
全国の科学館等にて受賞作品を上映

申込方法

- 下記参加申込方法により応募を募る。
第59回科学技術映像祭参加申込方法
- (1)参加者は、科学技術映像祭公式Webサイト
URL <http://ppd.jsf.or.jp/filmfest/> より
web申込の上、プリントした申込書に捺印の上、必要書類および作品を下記宛提出してください。web申込ができない場合も下記までご相談ください。
 - (2)出品作品の形態
DVDまたはBlu-ray、インタラクティブWeb動画等はDVDまたはCD-ROMを原則とします。3D、その他の形態で参加ご希望の場合はご相談下さい。
 - (3)提出書類等
 - 申込書 1通 (マルチメディア作品はA4用紙1枚[フリーフォーマット]指示書添付)
 - 出品作品
 - パンフレット等の印刷物 15部(あれば)出品作品は事務局より後日返却いたします。(送料:事務局負担)
<提出・問合せ先>
(公社)映像文化製作者連盟 「科学技術映像祭」係
〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18
藤和 日本橋小網町ビル7F
TEL.03-3662-0236 FAX.03-3662-0238

注意事項

- (1)参加にあたっては、必要な著作権処理を行なってください。万一、第三者から権利侵害、損害賠償などの主張がなされたときは、参加者自らの責任と負担で対処するものとし、主催者は一切の責任を負いません。
- (2)外国語版を出品するときは、日本語のスク립トを添付してください。
- (3)科学技術映像祭の入選作品を広く活用する観点から、広報活動や全国の科学館等での入選作品発表上映会や、NHK等での放送に協力すること。
受賞作品は、Webサイト、新聞報道等に掲載する広報資料用に作品の写真データの提供と発表上映会用にDVD等のコピーの提供をお願いします。
- (4)参加作品は科学技術映像ライブラリーおよび科学技術映像祭の記録用に寄贈されることを希望します。

(敬称略、順不同)

運営委員 ◎委員長

- ◎ 永野 博 (公社)日本工学アカデミー 専務理事
- 佐野 太 文部科学省 科学技術・学術政策局長
- 植木 勉 (公財)日本科学技術振興財団 常務理事
- 中原 徹 (公財)つくば科学万博記念財団 理事長
- 塚田 芳夫 (公社)映像文化製作者連盟 会長
- 中嶋 清美 (公社)映像文化製作者連盟 事務局長

審査委員 ◎委員長 ○副委員長

- ◎ 小出 重幸 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
- 丸山 剛司 中央大学理工学部 特任教授
- 高橋真理子 朝日新聞 科学コーディネーター
- 武部 俊一 日本科学技術ジャーナリスト会議 理事
- 土屋 敏之 日本放送協会 解説委員
- 田嶋 炎 (一社)日本民間放送連盟 番組・著作権部長
- 鈴木 ゆめ 横浜市立大学市民総合医療センター 一般内科教授・部長
- 木村 真一 東京理科大学 理工学部教授
- 岡田 秀則 東京国立近代美術館フィルムセンター 主任研究員
- 杉浦 淳二 映像・展示プロデューサー
- 長谷川 高士 ルネサンス・アカデミー(株)
- 長尾 英二 (公財)日本科学技術振興財団

■ 関係機関連絡先

公益財団法人日本科学技術振興財団

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 Tel.03(3212)8487 Fax.03(3212)0014

公益社団法人映像文化製作者連盟

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町17-18 藤和日本橋小網ビル7階 Tel.03(3662)0236 Fax.03(3662)0238

公益財団法人つくば科学万博記念財団

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻2-9 つくばエキスポセンタ Tel.029(858)1100 Fax.029(858)1107



A beacon under the night sky in Australia

探究は進むべき道を照らす

イノベーションの飽くなき追求が、
世界に知性をもたらす



ファーウェイは1987年に中国・深圳(シンセン)で
設立された民間企業で、世界170カ国以上で情報通信
のソリューションを提供しています。

2005年に設立されたファーウェイ・ジャパンは、人材
育成支援、震災復興支援、環境保全などの活動を通じ
日本の未来づくりにも貢献しています。

華為技術日本株式会社 (ファーウェイ・ジャパン)

東京本部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1
大手町ファーストスクエア ウェストタワー 12階
Tel.03-6266-8008(代表)
www.huawei.com/jp/sustainability

